

## シンポジウム【看護師のHBOへの関与】 HBOにおける看護師の役割と期待 ～臨床工学技士の立場から～ 臨床工学技士からHBO看護師へ期待すること

折原和広

地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立墨東病院 臨床工学室

日常、看護師とHBO業務にあたる『我々とは違うところを、よく見ているな』と感ずることがある。この『違うところを、よく見ている』ということは、看護師にとっての『観察』であり、これをもとに看護的対応を展開していると考えられる。この観察は、看護師の患者対応において非常に重要であると思われ、観察という面からHBO看護師の役割と期待を考察した。

HBO患者の看護を考えたとき、その看護とは、例えば患者観察にもとづく安楽な治療環境の整備や、治療中の患者対応などが挙げられる。これらには、訴え、表情、顔貌、呼吸、体動などの詳細な患者観察が必要であり、患者に目を配り変化を早期に察知して対応することが重要となる。また、第一種装置か第二種装置かの違いはあるものの、いずれの装置でも治療中は装置内に患者を収容するためモニタリング機器の使用は著しく制限がある。このため患者状態の把握が困難となりやすく、五感を駆使した観察と看護的対応も重要である。

また、もうひとつ看護として、患者の心理的サポートが挙げられる。例えば、放射線晩期有害事象はHBOのよい適応とされ広く施行されているが、現在の診療報酬の上限30回を行うとすれば相応の期間HBOを行うことになる。しかし、治療期間中その症状は一進一退であることも多く、患者は効果を実感しにくい側面がある。これがHBOへのストレスとなり、治療へのモチベーション低下を招きかねない。また自殺企図のあるCO中毒患者のHBOなどでは、その心理状態から治療中の危険行動が予測される。このとき、このような心理面を観察して、いち早く問題を察知して、患者をサポートすることも看護の重要な役割であると考えられる。そして、このような役割は、治療を進めようとする医療者と患者との仲介役として非常に重要な存在となりうる。

しかし、これらの看護的対応はHBOに特異的なものではなく、看護師がHBO領域以外でも日常的に行う、いわゆる『いつもの看護』が大部分ではないだろうか。ここでHBOの看護とは、通常の『いつもの看護』にHBOの理解を加えたものとするれば、このHBOの理解とは、例えばHBOの事故に関すること、酸素と高気圧環境などHBOの特殊性、治療効果や副作用などが挙げられる。そして、これらの理解を事故防止や治療説明、治療前の所持品確認など看護的対応に活かすことが望まれるが、このHBOの理解には、医師や臨床工学技士、専門学会などの協力が必要であり今後の課題である。また患者安全として、基礎看護技術の応用が有益と考える。例えば安全な移乗や移送などが挙げられ、これらを看護師により現場で技術展開すること、さらには、看護師から他職種への教育も重要な役割と考える。

HBOに従事する看護師には、①看護師の観察力、看護的視点や看護技術をHBOでも発揮してほしいこと、②これらの看護的視点や技術を他職種にも教育してほしいこと、③HBOの特殊性を理解して看護に活かしてほしいこと、そして、この理解には他職種や学会が協力すること、などを期待したい。そして将来的にはHBO看護師の学会認定資格が創設されるなど、多くの看護師がHBO領域の専門性を高めて職能を発揮できる仕組み作りにも取り組む必要があると考える。よりよいHBOのために、今後の看護師の参画に期待したい。